【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3578000188		
法人名	特定非営利活動法人 裕心会		
事業所名	認知症高齢者グループホームわかば苑		
所在地	山口県三隅上5109-1		
自己評価作成日	令和3年7月22日	評価結果市町受理日	令和3年12月6日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
調査実施日	令和3年8月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームから野鳥や道行く人々の姿を眺めたり、敷地内に栽培している野菜や果物などをいつでも自由に触れることができ、職員は子供同伴で勤務できるように配慮されているため、利用者様と子供たちが触れ合うことが出来る開放的な空間であり、家庭的な穏やかな雰囲気の中で日々過ごしていただいている。協力医による「毎月の往診」は、利用者様やご家族の「安心」に繋がり、「管理栄養士による栄養バランスの良い職員手作りの食事」もまた、利用者様の健康の元となっている。また、数年前から「グリーンカーテン」に取り組み、各部屋窓外部に「ゴーヤ」や「朝鮮あさがお」を栽培し、植物の成長を見守る中で、自然環境による心地良さも感じていただいている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所に地域の人が畑の野菜の世話やプランターの花の手入れに訪され、利用者が植物の成長を見守り花を通して四季を感じ自然環境の心地よさを感じることができる環境が整えられています。日々の関わりの中で利用者ひとり一人に「何がしたいか、何が欲しいか」など声かけをされて、思いや意向の把握に努められ、「ケース記録」に記録されて全職員が利用者の思いや意向を共有しておられます。事業所は、利用者の気分転換をはかるリレーションとして、職員宅で柿を摘がれたり、野菜の収穫をされている他、浴室の環境を整えるため冷暖房機を設置されるなど、職員の意見や提案を運営に反映しておられます。新聞紙のゴミ袋づくりや利用者全員が自分の洗濯物籠に入っている洗濯物を片づけておられるなど、利用者のできることを活かされて、活躍できる場面づくりを工夫され、張り合いや喜びのある日々が過ごせるように支援に取り組んでおられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24・25・26)	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10・11・20)
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19・39)	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2・21)
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38・39)	67	職員は、生き活きと働けている (参考項目:12・13)
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31・32)	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:29)		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「友情・信頼・尊敬・感謝・博愛」を苑是とし、「地域とのふれあいを大切にし、利用者様と職員がいつも笑顔いっぱいの暖かい施設づくりを目指します」を理念とし、利用者様への尊敬と優しさを優先し職員間の信頼関係を基に接している。	地域とのふれあいを大切にし、利用者と職員がいつも笑顔いっぱいの温かい事業所づくりを事業所独自の理念とし、事業所内に掲示し、月1回の職員会議で話し合っ、利用者ひとり一人を尊敬し優しさを持って対応することに心がけて、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	花壇や玄関前のプランターの花々は、地域の皆さんのご厚意によるもの。可能な範囲で、地域の催しや近隣寺院の「花まつり」に参加し、法話を聞いている。また、年1回の地域サロンの皆さんとの交流は楽しみの一つとなっている。(コロナ禍で当年は難しい状況)	自治会に加入し、回覧板や近所の人から、地域の情報を得ている。事業所に地域の人が畑の野菜の世話やプランターの花の手入れに来訪し、利用者が植物の成長を見守り、花を通して四季を感じ、自然環境の心地よさを感じるができる環境が整えられている。地域の催しへの参加や近隣寺院の「花まつり」へ参加、地域サロンの人との交流等は、コロナ禍で中止になっているが、地域の人から玉ねぎの差し入れがあるなど、地域の一員として日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設としては取り組んでいないが、見学等の申し入れがあれば、いつでも受入が出来る。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	改善点や指摘事項については、会議等で改善策を話し合い、全職員に自己評価表を配り、各自の意見を聞き取り組んでいる。	管理者と理事が、評価の意義について説明し、全職員に前回の評価結果を配布し、職員一人ひとりが項目ごとに記入して話し合いの後、管理者と理事と計画作成担当者がまとめている。外部評価結果を受けて目標達成計画を作成し、毎月の会議でヒヤリハット・事故報告書に基づいて対策を検討して、実際の応急手当や初期対応についての実践力を身につけるための取り組みを行っているなど、改善に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	委員の皆さんにホームの意義目的の理解を求めながら、率直な意見を聞き、水害等の対策、安全のための側溝蓋の設置を市役所に問い合わせる等、サービスの向上に活かしている。	会議は、新型コロナウイルス感染防止策として、年6回書面開催している。利用者の近況、行事報告、事故・ヒヤリハット報告等を報告し、意見記入用紙を同封し、メンバーからの意見を求めている。メンバーからは、ワクチン接種状況について心配する意見が寄せられ、理事が対応している。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	問題発生時には報告しアドバイスも頂きながら問題解決に繋げている。運営推進会議出席の方以外の職員の方にも、地域密着型施設の現場を積極的に見て(知って)いただき、協力関係を築きたい。	市担当者とは、介護保険更新時に直接出向く他、市主催の研修会に参加したり、電話やFAXで相談をして協力関係を築いている。地域包括支援センター職員とは、入居情報の交換等をして連携している。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が、身体拘束について正しく理解しており、日中は玄関は施錠せず、外出傾向のある利用者と一緒に外出したり、遠くから見守り外出の思い等を聞く等、身体拘束のないケアに努めている。身体拘束廃止に関する指針も作成。	「身体拘束適正委員会」を年4回開催し、全職員が委員となり「虐待の芽チェックリスト」を実施し、職員は理解して、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。スピーチロックについては、管理者がその都度指導している他、職員間でも話し合っている。日中は玄関は施錠せず、外出したい利用者とは職員と一緒に出かけている。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	常に利用者の立場に立って対応し、可能な研修に参加、報告している。また内部研修として3か月毎に「虐待の芽チェックリスト」で日々のケアを振り返り、虐待防止に繋げている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加した際には内部研修を行っているが、全職員が制度の理解を深めるためにも、積極的な参加を心掛けたい。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時には十分説明をし理解していただいているが、入居後も疑問点があれば、理解していただけるよう対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	第3者相談窓口も設け、重要事項説明書や苦情相談窓口も苑内に掲示し受入態勢は整っている。家族には面会時や電話、受診同行時、利用者にはケアプランの更新時に直接意見や要望等を聞き、出た意見を反映させている。	契約時に相談、苦情の受付体制や処理手続きについて本人や家族に説明している他、相談、苦情受付窓口を事業所内に掲示している。面会時や電話、受診同行時、ケアプラン更新時、事業所便り送付時等、家族から意見や要望を聞く機会を設けている。職員間では申し送り時に共有している。家族から面会の要望があり、市内、県内、県外と分け、その時の感染状況に応じ、携帯電話のラインやガラス越しの面会を行っている。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の会議等で処遇改善、業務改善に努めている。	理事は、月1回の職員会議の他、必要に応じて職員からの意見や提案を聞いている。職員自身のコロナ禍でのストレスについて相談があり、勤務体制の変更などを行い、職員が働きやすい環境づくりに取り組んでいる。職員の意見や提案で、利用者の気分転換をはかるリクレーションとして、外出のできる行先を職員宅とし柿を挽ぐ、野菜の収穫をしている他、浴室の環境を整えるため冷暖房を設置する等、反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	基本は市内各事業所(市役所・JA・企業等)の給与水準、職場条件等を参考に実施しているが、職員の都合(条件等々)を聞き、可能な範囲で環境を整え、働く意欲を持つる職場を目指している。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修テーマに基づき可能な限り参加するようにしている。希望があれば自己研修についても推進し、日々の業務の中で技術や知識が身につくよう、出来る範囲のサポートは事業所で行う。	外部研修は、情報を職員に伝え、段階や希望に応じて勤務の一環として受講の機会を提供している。今年度は、認知症介護実践者研修、新型コロナウイルス感染症、フレイルを知り予防しよう等に参加している。受講後は毎月の職員会議で受講者が復命し、共有している。虐待や身体拘束についての研修は、3ヶ月毎の「身体拘束適正委員会」で行い、月1回の会議でヒヤリハット・事故報告書に基づいて、対策を検討して実際の応急手当や初期対応についての基本的知識を身につけ、苑独自の初期対応を共有し、実践に備える避難訓練やAEDの実施方法等は、理事が講師になって行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県内のGH連絡協議会には加入し、市の地域ケアネットワーク会議にも可能な範囲で参加し、市内同業者との交流を図っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	聞き取り、面談を十分に行い、表情を見て思いをくみ取りながら、個別の声かけや気配りを心掛けている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時や苑通信等で状況報告し、定期的にケアマネから連絡を取り、思いや要望を聞き、安心感が持てるサービスの方法を十分に説明している。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人家族の要望を聞き、全職員が話し合いによる共通認識を持ち、サービスを提供できるよう努めている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様を敬う気持ちを忘れず、会話を多く持つよう心がけ、信頼関係を築けるよう努めている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人に何らかの変化に気付いた時には、まず職員間で協議し、家族への連絡を密にし、家族と本人の関係性をも考慮した対応を心掛けている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	年賀状の交換、知人、親戚からの電話や訪問、可能な状況であれば、利用者の馴染みの場所へのドライブをしたり、本人の希望に沿い、外食等、外出を実現できるよう支援している。	面会は市内、県内、県外と分け、その時の感染状況に応じて、帯電話のラインや玄関ガラス越しで行っている。暑中見舞い上での交流を支援している。馴染みの場所へのドライブや家族の協力を得て自宅に帰りスーパーマーケットで買い物をするなど、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様一人ひとりのレベル(ADL)や性格の違いを考慮し、テーブルを増やしたり席替えをし、職員の席の配置にも気を配り、皆が会話に参加できるよう見守っている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了した後も、利用者様本人がより良い支援を受けられるように、依頼があれば主にケアマネが相談に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望や意向を積極的に聞き取り、処遇会議で検討している。ケア記録、声掛け等で本人の思いを全職員が理解している。	入居時の個人調査票、認定調査票、センター方式シートを活用している他、4月からは事業所独自のフェイスシートを使い、アセスメントを行っている。日々の関わりの中で利用者ひとり一人に「何がしたいか、何がして欲しいか」など声かけをして、思いや意向の把握に努め「ケース記録」に記録し、全職員が把握している。困難な場合は、本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の聞き取りで情報を把握し、日常で疑問が生じた場合は家族と連絡を取りながら、サービス内容に活かしている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の現状を観察し、一日の生活リズムを把握し、毎月の処遇会議等で情報交換を行い、利用者様の思いに沿うように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	半年毎にセンター方式を用い、家族の要望を反映し、ケアマネが介護計画を作成し、毎月1回のケアカンファレンスで利用者様一人ひとりのモニタリングをしている。	計画作成担当者を中心に、家族や本人、主治医や看護師の意見を参考にして全職員で処遇会議を毎月実施して話し合い、介護計画を作成している。3ヶ月毎にモニタリングを行実施し、家族からの意見や要望を聞いて6ヶ月毎に見直しをしている。利用者の状態や要望に変化が生じた場合は、その都度見直しをして、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア記録は、サービス計画を反映した内容や排泄・受診状況・体調の変化が分かりやすいように色ペンで記入する等工夫し、職員間で情報を共有しながら、毎日のケアに活かしている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者個々のニーズに従って、幅のある柔軟性のあるサービスを日々認識している。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議等で協力を呼びかけている。非常時に備え、他施設や地域消防員にも協力していただけるようお願いしている。また、地域の文化祭には利用者様の作品を出展している。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族が希望する医療機関をかかりつけ医とし、受診時には家族か職員が同行し、協力医は月に1回の往診の他、緊急時の往診、他科受診については紹介状にて、適切な医療を受けられ、家族、利用者も安心されている。	本人や家族の希望する医療機関をかかりつけ医としている。受診時は家族か職員が同行して受診の支援をしている。事業所の協力医療機関からは月1回の訪問診療がある他、利用者全員の健康チェックもある。受診結果は、ケア記録に記録して職員間で共有している。夜間や緊急時には協力医療機関の指示を受けて事業所が対応している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常生活での小さな変化や気づき等は全職員で報告し合い、記録し、健康管理には万全を期している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族には、入院時の情報提供はお願いしているが、各々の家族事情や価値観の違いにより、対応はまちまちである。入退院時は、医療機関へサマリー提供し、緊急時に備え「情報提供個人カード」も作成している。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時、重度化した場合に苑で対応出来る事は家族に説明しており、重度化した場合は協力医へ相談し、家族との話し合いの場を持ち、処遇を決めて全職員で支援している。	重度化した場合に事業所でできる対応について、契約時に本人や家族に説明している。実際に重度化した場合には、本人や家族の意向をふまえた上で主治医や看護師等と話し合い、医療機関や他施設への移設も含めて方針を決め、職員間で共有して支援に取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	マニュアルは作成している。AEDを設置し心肺蘇生やAEDの使い方等の訓練を年1回実施している。事故発生やヒヤリハット記録を職員会議でその都度話し合い、打開策を検討し、事故防止に取り組んでいる。	事例が生じた場合は、事故報告・ヒヤリハット記録にその日の職員で対応策について話し合って記録し、申し送り時に共有している。月1回の職員会議で再検討(事例検討)し再発防止に取り組んでいる。月1回の職員会議でヒヤリハットに準じて実際の応急手当や初期対応についての基本的知識を身につけ、苑独自の初期対応やAEDの実施方法等を共有し、実践に備える取り組みを行っている。	・全職員が応急手当や初期対応の実践力を身につける定期的訓練の継続
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成しており、避難訓練や通報訓練を定期的実施しており、協力施設への避難も行えるようになっている。地域の消防協力員にも緊急連絡網へ加入していただき協力していただいている。	年2回、昼夜想定通報訓練や避難誘導訓練を利用者も参加して実施している。地域の消防協力員に緊急連絡網への加入の協力を得ている。災害時の避難場所として地元の介護福祉施設の協力を得られている。水害時は、市の指定避難場所を利用することとし、下見を行っている。想定される(水害)の時期になると食物、水の準備をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は利用者を人生の先輩として敬い自尊心を傷つけない言葉づかいや対応に努めている。個人情報の取り扱いにも注意し、プライバシーの保護にも努めている。	職員は、月1回の職員会議で学び、理念にある利用者ひとり一人を尊敬する思いをもって、自尊心を傷つけない言葉づかいや対応を行っている。不適切な対応や言葉かけがあれば、管理者が指導している他、職員同士で話し合っている。個人情報の管理や取り扱いに留意すると共に、守秘義務についても遵守している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの生活歴(性格)も把握し、思いや希望が引き出せる様に話し掛け、希望を聞き、各々の能力に合わせて自己決定できるように促している。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その都度、利用者様の気分や体調に合わせて、食事の下膳などは「声掛け」で自由にできるように、可能な範囲で希望に沿って支援するように努めている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々のライフスタイルに合ったものを提供できるように支援している。 下着、服などを職員が提供することも多い。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	栄養バランスと個々の好みを把握した献立を管理栄養士が考え、差し入れや畑で採れた季節の野菜を使い、三食とも苑で調理している。声かけにより、野菜の皮むき、台拭き、配膳の準備等を利用者と一緒に行っている。おやつ作りや、行事食等で食事が楽しみとなるようにしている。	利用者の希望を聞いて、管理栄養士の資格を持つ職員が献立を作成し、事業所で採れた野菜(芋)や差し入れの玉ねぎなどを使って、三食とも事業所で調理している。利用者の状態に合わせて形状も工夫している。利用者は、野菜の皮むき、台ふき、配膳の準備等、できることを職員と一緒にしている。季節の行事食（敬老会の寿司、新年互例会のお茶とお菓子、クリスマス会のケーキ、誕生日のケーキと寿司、刺身）、レクレーションとしておやつづくり(桜餅、クッキー)、家族の協力を得ての外出等、食事を楽しむことができる支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考慮した献立を管理栄養士が作成し、それを基に職員が調理し提供している。飲みやすい清涼飲料水等の工夫をし、個々の摂取量水分量はチェック表で把握している。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨き・うがいの声かけ・見守りをし、週1回の義歯洗浄を職員が行っている。定期的に義歯消毒(ポリデント)も行っている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	必要に応じて、排泄のチェック表を記入し、利用者の排泄パターンを把握し、行動や表情の少しの変化を見逃さず、誘導によりトイレでの排泄を促している。	必要に応じて、時系列に排泄チェック表を作成している。利用者の排せつパターンを把握し、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排便の有無をチェックし排泄パターンを理解し、水分補給や運動を促しながら、個々の状況に応じて医療機関に相談し薬で調節している。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は隔日とし、脱衣室はエアコンを設置し快適な空間で利用者の体調に合わせて清拭、シャワー浴で、無理強いせず入浴している。	入浴は、隔日都市、概ね14時から17時30分を目途に利用者の状態に合わせて支援している。入浴をしたくない利用者には時間を変えたり、職員を変えたり、声かけを工夫している。脱衣場の冷暖房設備や入浴後の水分補給の場の確保など、工夫している。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個別に休息を促し、声かけもしながら室内温度調節等により環境を整えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	通院簿を作成しており、個々の処方箋を確認しながら行っている。また症状の変化に応じ、かかりつけ医に相談し、飲みにくい錠剤を粉薬に変更している。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節毎の(ドライブ・外食)を実施したり、散歩、草取り、野菜の収穫、掃除等、出来る範囲で職員と行い、お礼の声かけも心掛けている。希望により整体院に出張していただく事も可能。	ぬり絵、習字、貼り絵、テレビの視聴、新聞を読む、間違い探し、日記を書く、歌を歌う、ラジオ体操、テレビ体操、ころぼん体操、ティータイム、暑中見舞い交換、洗濯物干し、洗濯物たたみ、草取り、野菜の収穫、配膳、下膳、台ふき、モップかけ、季節の行事(敬老会、新年互例会、クリスマス会、誕生日会)、レクレーションとしておやつづくり、3ヵ月毎の移動美容院(毛染めも可能)、メガネ屋が来苑しオーダーメイドのメガネが手に入る等の他、新聞紙のゴミ袋づくりや利用者全員が自分の洗濯物籠に入っている洗濯物を片づける等、利用者が生き生きと張り合いや楽しみごとのある日々が過ごせるように支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その都度、利用者のお気持ちをくみ取りながら、散歩は(体力)別にし、可能な範囲で買物、ドライブ、外食等、皆が無理なく外出が出来るよう支援している。	事業所周辺の散歩、苑の野菜の収穫、職員宅の柿もぎや蕨採りに出かけている。家族の協力を得て自宅へ一時帰宅し買い物や食事を楽しむなど、戸外に出かけられるよう支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の預かりはしないが、所持している利用者もある。希望があれば立替金として本人購入も可能。(菓子・果物等の買物支援)		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からのお荷物(プレゼント)が届いたら、必ず職員が電話報告し、利用者様にもお話ししている。トラブルに注意しつつ、携帯電話の所持も可能。Wi-Fiもあり、ビデオ通話も可能。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、各テーブル、自室に季節の花々を生け、季節に応じた貼り絵やぬり絵を皆で作成掲示し、季節を感じられるよう工夫している。職員の調理の音や香りなど、生活感を感じられる。脱衣室にはエアコンを設置し、トイレマットはリースで定期的に交換し、快適な空間である。	玄関周辺のプランターには、花が植えてあり、玄関の入り口には生け花が飾ってある。壁面には利用者と職員で作った季節の貼り絵(柿、紅葉)が飾ってある。食堂の窓から田園の風景や山々の緑を見ることができる。畳の部屋には仏壇があり、利用者が自由に出入りをして手を合わせている。対面式の台所から食事を身近に感じることができ、嗅覚からも家庭的な雰囲気を感じることができる。風呂場の脱衣室には冷暖房機を設置し、トイレマットはリースで定期的に交換する他、温度や湿度、換気に配慮し居心地よく過ごすことができよう工夫している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールや和室(談話室)にテレビを置き、自由に過ごせるようにしている。状況に応じて、皆が穏やかに過ごせるように、利用者間の調和を考慮した席替えも行っている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に自宅で使い慣れた寝具、テレビ、衣装、仏壇等持ち込まれたり、家族写真や作品等を飾り、心地良い本人らしい居室となるように支援している。	タンス、テレビ、寝具、衣装ケース、仏壇、時計、化粧品、生活用品等、使い慣れたものを持ち込んでいる。家族写真、利用者の作品、誕生日の色紙等飾って居心地よく過ごせるような工夫をしている。利用者ひとり一人の居室の入り口には、職員の手づくりの暖簾をかけている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要に応じて、トイレ、自室のドア、テーブルに名前や写真を貼る等、分かりやすくしている。声かけを常に行い、出来る事はしていただけるよう見守っている。		

2. 目標達成計画

事業所名 認知症高齢者グループホームわかば苑

作成日: 令和 3 年 12 月 6 日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35 (15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤嚥、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	職員全員が、初期対応の実践力を身につける。	ヒヤリハット(事故報告)記録に基づき、毎月の職員会議で対策を再検討し、再発の防止に取り組んでいる。基本知識を身につけ、苑独自の応急手当を共有する。	通年
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。